

5G通信をはじめ、AIやビッグデータに電気自動車。近年、私達の生活を大きく変える技術がいくつも台頭しています。デザインセンターでは、これから起こる大変革に対応すべく、2017年、デザイン創造交流拠点「クリエイティブ・デザイン・ハブ」を設置し、県内外様々な分野の方が参加する未来研究活動を開始しました。



“未来”をデザインしています—— 産学官連携による研究会、開催中。



》「移動」研究会、いよいよ佳境へ

2018年の立ち上げから毎月開催している研究会では、毎回、新技術に関わるゲストを招き、議論しながら未来の生活を描くことに主眼を置いています。この活動から生まれた代表的なプロジェクト「パーソナルモビリティ開発」は、議論の中で示された「高齢化に反して巨大化するショッピングモールでは、今後施設内の移動サポートが必要になる。」という仮説をきっかけに始まりました。

ショッピングモール関係者をゲストに招き、議論を交わすとともに、高齢者にとって運動施設にもなりえるショッピングモールでの移動をどこまでサポートすべきか、GPSが対応しない屋内をどう案内するか等、様々な観点から検討を重ね、試作機を製作。ショッピングモール内でのテスト走行を経て、現在は、県内外・産学官連携での共同研究に発展しています。



》新しいプロジェクトを次々と

デザインは、最終的には色や形を整える作業です。ただ、色と形を「的確に」整えるためには、「多様化する市場の、隠れたニーズを見つけ、効果的な伝え方を選ぶ」作業が欠かせません。一方、この研究会では「不確かな未来を思い描き、新たなニーズを仮定し、進化の方向を検証する」ことでイノベーションを起こそうとしています。

お気づきのように、対象は違っても、新しい価値を作り出す根本的な考え方は同じなのです。近年、様々な分野で「デザイン思考」の必要性が示されているように、私達はこれをイノベーションの創出にも応用できると考え、実践しています。今後も、デザイン視点での異業種連携を進め、魅力的なプロジェクトを生み出したいと考えています。